

Eco

by

KDDI

環境への取り組み 2005



ごあいさつ

インターネットや携帯電話など、情報通信技術の目覚ましい進歩により、私たちはいつでも、どこでも、あらゆる情報やサービスとつながり、自由なコミュニケーションができる「ユビキタス・ネットワーク社会」を迎えようとしています。この時間や場所にとらわれない新たな社会は、私たちの生活そのものを大きく変化させる可能性を秘めており、KDDIも情報通信サービスを通じ、豊かな社会づくりへの貢献を目指しています。

しかし一方で、これまでの技術革新の歴史の中でもたらされた大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会は、物質的な豊かさとともに、地球温暖化をはじめとしたさまざまな環境問題をも生み出しました。情報通信サービスにおいても、通信ネットワークを流通する情報量が増え続ける中で、エネルギー使用量や温室効果ガス排出量を削減するには、より多くの努力と実践が必要となっています。また、携帯電話の販売数は日本全国で年間4,000万台以上に達し、機種変更や解約などで不要となった携帯電話の回収・リサイクルは、循環型社会を構築する上で無視することのできない問題となっています。

KDDIは「地球環境との調和」を経営理念の一つとしており、かけがえのない地球を次世代に伝えるために、会社全体の指針を定めた「KDDI環境憲章」を制定し、全社的な活動体制のもとで環境保全活動に取り組んでいます。

このたび、環境保全活動の状況についてまとめた報告書「ECO by KDDI 環境への取り組み 2005」を作成いたしました。活動内容・実績ともに不足な部分が多々あるかと存じますが、KDDIの環境問題への取り組み姿勢と活動をご理解いただくとともに、ご意見、ご指摘をいただければ幸いです。

情報通信サービスは、人やモノの移動を減らし、さまざまな業務を効率化することで、地球環境への負荷を減らし環境問題を解決できる、すばらしい「力」を持っています。豊かな地球のもとで、真に豊かな社会を形成するために、KDDIは今後も着実に取り組みを進めてまいります。



2005年7月
代表取締役社長兼会長
小野寺 正

KDDI 環境への影響 (2004年度)

 使用するもの
 排出するもの

⚡ 電力使用量

通信設備……………111,603万kWh
 オフィス……………1,710万kWh

🔥 燃料使用量

通信設備※(重油)……………406kℓ
 (軽油)……………132kℓ
 (灯油)……………258kℓ

(※ 設備の空調および非常用発電装置に使用)

自動車(ガソリン)……………993kℓ
 (軽油)……………35kℓ

📄 紙使用量

総量……………27,200トン

💧 水使用量

通信設備……………405千㎡

資源
エネルギー

製造メーカー

KDDI

電力

お客さま

CO₂
産業廃棄物

🌸 温室効果ガス (CO₂換算)

通信設備用電力……………421,861トン
 オフィスでの使用電力……………6,465トン
 通信設備用燃料……………2,090トン
 自動車燃料……………2,491トン

🗑️ 産業廃棄物排出量

総量……………349トン

リサイクル

CO₂

使用済み携帯電話
 回収数
 本体・224万台
 電池・182万台
 充電器・101万台

本誌はKDDIの環境問題に対する取り組みに関し、基本的な方針と実績、および今後の計画を掲載しています。幅広い層の皆さまにご理解いただくために、活動内容をテーマ別に分類し、簡潔に記載するとともに、誌面のデザイン・文字の大きさなどにも配慮し、読みやすさを重視して作成しました。

【参考にしたガイドライン】

環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」

【対象範囲】

期間 2004年度(2004年4月1日~2005年3月31日)

※一部内容に2005年度のものを含む

組織 KDDI株式会社

※一部内容にグループ企業(連結子会社)のものを含む

【発行】

2005年7月(次回発行予定2006年7月)

【お問い合わせ先】

KDDI株式会社 総務部

〒102-8460 東京都千代田区飯田橋3-10-10 ガーデンエアタワー

Tel. 03-6678-0720 Fax. 03-6678-0317

E-mail: eco@kddi.com

KDDIの環境保全活動に関するホームページ「ECO by KDDI」

<http://www.kddi.com/corporate/kddi/kankyo/>

※環境データの記載にあたっては、表示数値未満を四捨五入しております。

未来につながるコミュニケーション

KDDIの仕事はあなたとたいせつな誰かや
必要なもの・情報を「つなげて」いくことです。

KDDIの願いと責任はたいせつな地球を
未来に「つなげて」いくことです。

それは地球とあなた、
未来をつなぐコミュニケーション。

KDDIは始めています。

1

しくみをつくる

環境を守るための体制づくり 7ページ

- ・みんなで計画・みんなで実行
KDDI環境委員会
職場エコ委員
- ・環境マネジメントシステム
- ・ISO14001 認証の取得

3

あたらしい技術

技術を活かした環境貢献 15ページ

- ・位置情報提供サービス『GPS MAP』
- ・TV会議システムの活用
- ・携帯電話向け小型燃料電池の開発
- ・大型リチウムイオン電池の技術研究

2

むだをへらす

省エネルギー・省資源への取り組み 11ページ

- ・地球温暖化防止に向けて
- ・京都議定書について
- ・KDDIの温室効果ガス排出量
- ・設備の省エネルギー
- ・オフィスの省エネルギー
- ・電子化で省資源

- ▶ ごあいさつ 1ページ
- ▶ KDDI 環境への影響 2ページ
- ▶ KDDI 環境憲章 5ページ

4

再生する

リサイクルへの取り組み 17ページ

- ・日本の携帯電話とリサイクル
- ・携帯電話は資源のかたまり
- ・環境にやさしい「マテリアルリサイクル」
- ・リサイクルの舞台裏
- ・KDDIの取り組み
 - ・ショップ店頭で携帯電話を回収
 - ・すべての携帯電話を無料回収
 - ・みんなで一緒にリサイクル
 - ・事業用設備のリサイクル
 - ・au携帯電話の充電器共通化
 - ・携帯電話 データの保護について

Recycle

6

つたえる

コミュニケーションと情報開示 27ページ

- ・地域における環境貢献
- ・「2005年日本国際博覧会」(愛・地球博)への協力
- ・社員とのコミュニケーション、教育活動
- ・インターネットを通じて
- ・地球の「今」を待ち受け画面に!『live earth』

5

エコでえらぶ

グリーン購入への取り組み 23ページ

- ・KDDIグリーン購入ガイドライン
- ・KDDIグリーン購入の仕組み
- ・お取引先さまとともに
- ・一人ひとりのグリーン購入

- ▶ 環境保全活動の目標と実績 31ページ
- ▶ 環境データ 33ページ
- ▶ 活動のあゆみ 34ページ
- ▶ 会社概要 35ページ
- ▶ 編集後記 35ページ



KDDI 環境憲章

【基本理念】

KDDIグループは、かけがえのない地球を次の世代に引き継ぐことができるよう、地球環境保護を推進することがグローバル企業としての重要な責務であるにとらえ、環境に配慮した積極的な取り組みを、会社全体で続けていきます。

【行動指針】

1. 当社の事業活動が地球環境に及ぼす影響を定量的に評価し、環境保全活動の効果的な仕組み作りと継続的な改善に努めます。

具体的には、以下の通りとします。

- 1) 省エネルギー、省資源、廃棄物削減等の環境問題を継続的に改善するために必要な環境マネジメントシステムの構築と運営
- 2) 環境関連法規、条例等の規制、および要求事項の遵守
特に、地球温暖化防止の観点から電力消費量の削減に向けた施策の推進
- 3) 社内外への適切な情報の開示によるコミュニケーションの促進

2. 次世代IT技術を活かした環境負荷低減型サービスの開発・提供に努めます。

3. 携帯電話端末等の大量消費を伴う事業活動で生じる環境負荷を低減させるための施策を進め、循環型社会の構築に貢献します。

4. 機器および物品の調達にあたり、環境配慮製品の調達を推進します。

5. 環境に調和した豊かな社会に向け、企業市民として社会・地域における保全活動に貢献します。



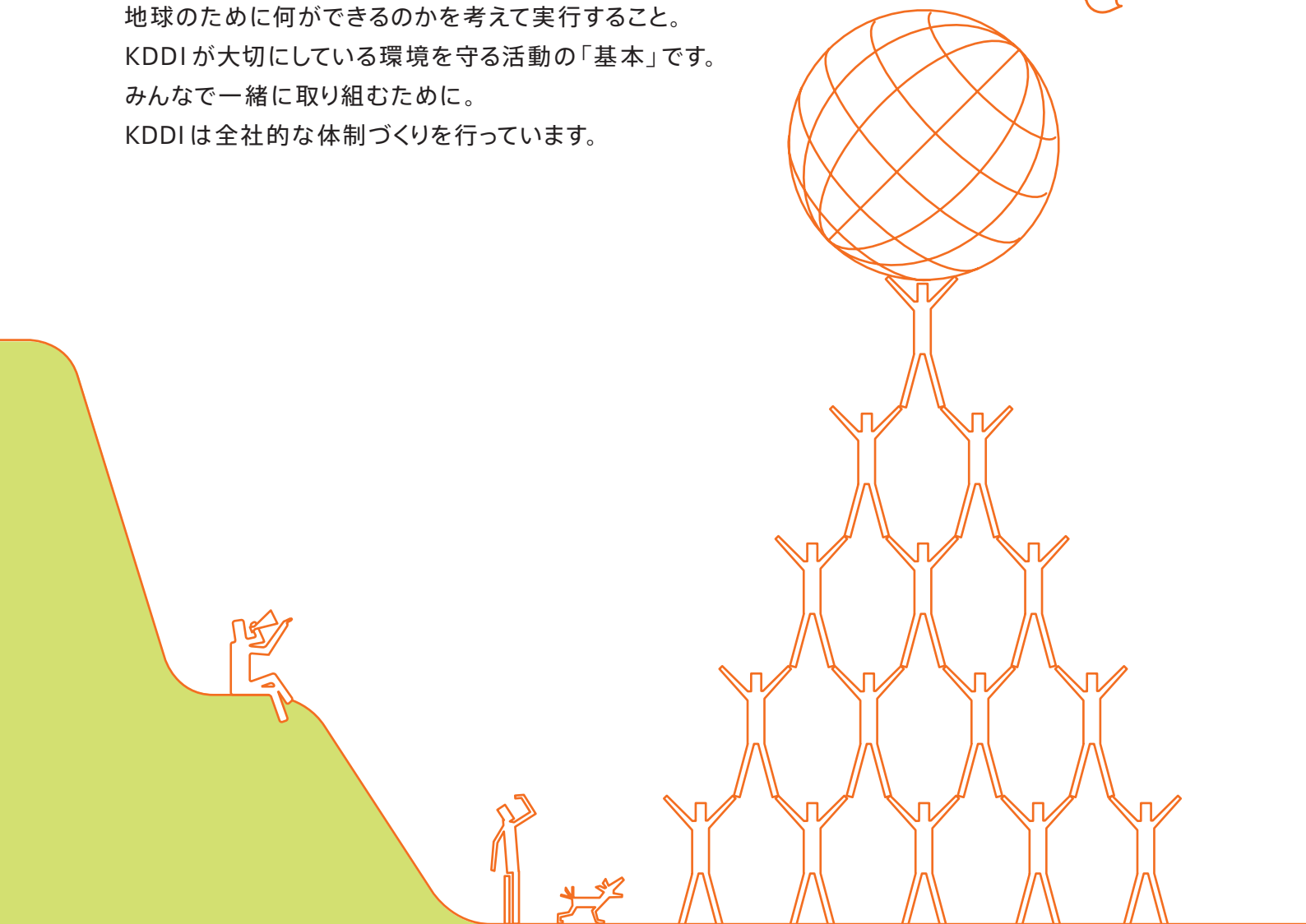
ECO by KDDI



1 しくみをつくる

環境を守るための体制づくり

社員一人ひとりが
地球のために何ができるのかを考えて実行すること。
KDDIが大切にしている環境を守る活動の「基本」です。
みんなで一緒に取り組むために。
KDDIは全社的な体制づくりを行っています。



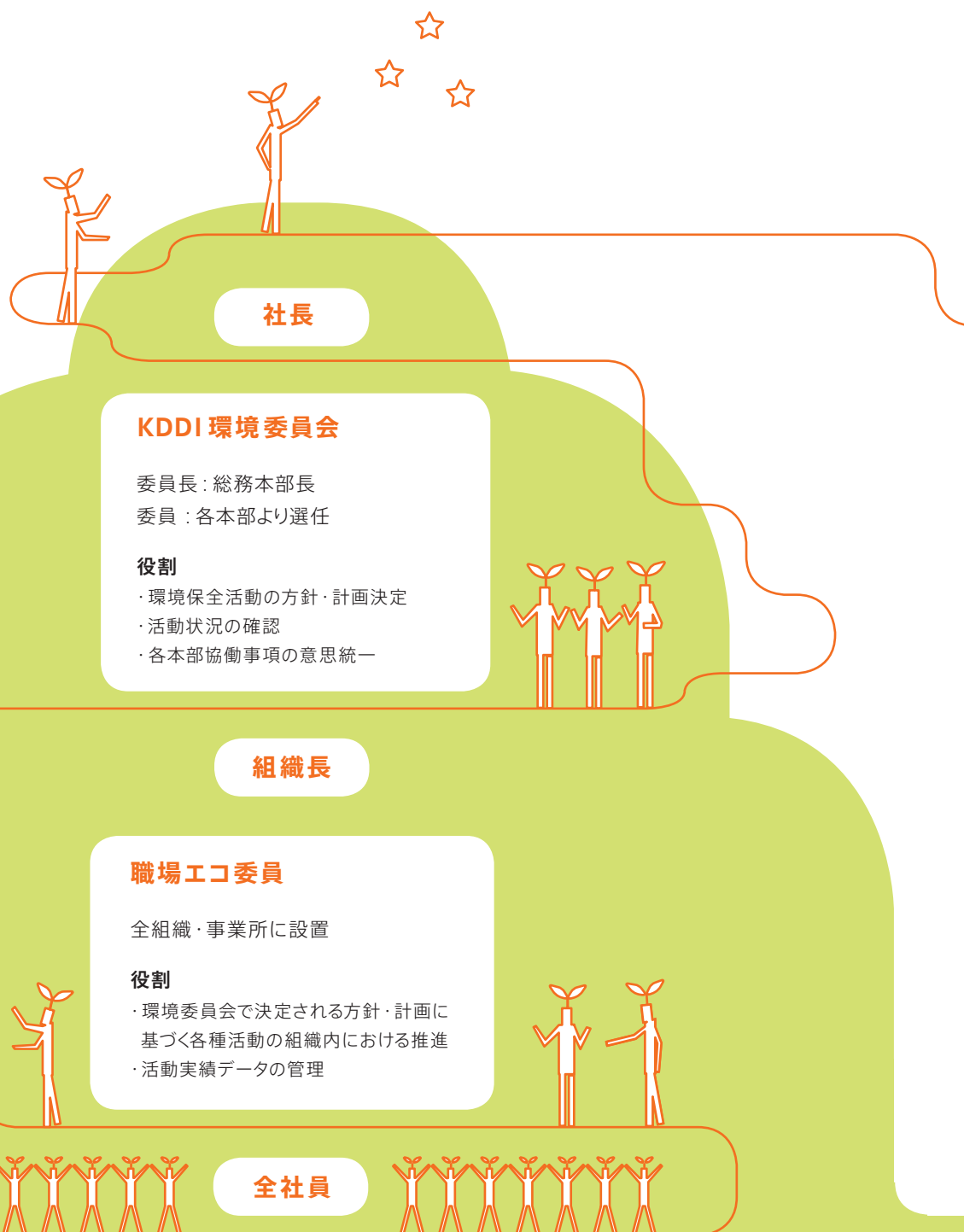
みんなで計画・みんなで実行

KDDI環境委員会

「KDDI環境憲章」に基づく、環境を守るための活動は、すべて「KDDI環境委員会」によって運営されています。委員会は定期的に開かれ、日々社員が行う活動や環境保全プロジェクトに関する方針・計画を決定します。構成メンバーは全KDDIから集まった「環境委員」たち。ひとつの組織だけでは解決できない問題にも、みんなで協力して取り組んでいます。

職場エコ委員

室内の温度設定、照明のこまめな消灯、パソコンやプリンタの省エネルギー設定……。どれも一見ささやかな活動ですが、一人ひとりが実践することで、大きな効果につながります。これら身近なエコ活動の中心になるのが、KDDIのすべての組織にいる「職場エコ委員」です。毎日の活動を職場単位で進め、環境データの管理を行います。



環境マネジメントシステム

きちんと続けていくために

地球温暖化や資源の枯渇、リサイクル……。私たちの身近で起きているさまざまな環境問題を解決するためには、社会全体で取り組まなければなりません。もちろん、企業にも環境に対する取り組みが求められており、省エネルギー法や、各種リサイクル法といった環境を守るためのルール作りも進められています。

効果的な活動を続け、環境への負荷を確実に減らすために、KDDIの環境保全活動は「環境マネジメントシステム」に従って行われています。

「環境マネジメントシステム」とは、企業などの組織が、地球環境に与える負荷を減らし続けていくために、組織内部の体制や手続きを整えた仕組みのことです。4つのステップからなる「PDCAサイクル」により実施されます。

1: 方針・目的および、その実現のための計画立案

環境への影響や法的な要求などに従って目的や目標を決定し、それを実現するための計画を立てます。

Plan

2: 実施および運用

オフィスの昼休み消灯といった身近なことから、省エネルギーのための大規模な設備投資まで、計画に従ってさまざまな取り組みを実行します。

Do

4: 次のステップを目指した見直し

Check段階での評価・分析をもとに計画を見直し、改善点を反映した次の計画を作ります。

Action

Check

3: 結果の点検および是正

日々の点検や内部監査を通じて、計画の達成状況を評価し、成功や失敗の理由を分析して改善を図ります。

このような取り組みを、繰り返し実行することで、一時的ではなく継続的に、環境への負荷を減らしていくことができます。

ISO14001 認証の取得

～エコ企業への仲間入り～

「環境マネジメントシステム」の仕組みに従って活動を推進していると認められた企業に発行されるのが、国際標準化機構 (ISO) の定める国際的な規格の一つ「ISO14001」認証。いわば環境にやさしい企業への「認定バッジ」です。環境と調和し、地球を次の世代につなげられる企業活動を実現するために、KDDIでは「ISO14001」の認証取得を推進しています。

KDDIの認証取得組織数は2005年3月末現在で17の本部と事業所、対象人数は約2,500名(業務委託先・派遣社員などを含む)となりました。

今後もKDDIグループ全社でのISO14001認証取得を目標に、活動を推進してまいります。



ISO14001 認証取得組織 (2005年3月末現在)

● 飯田橋事業所

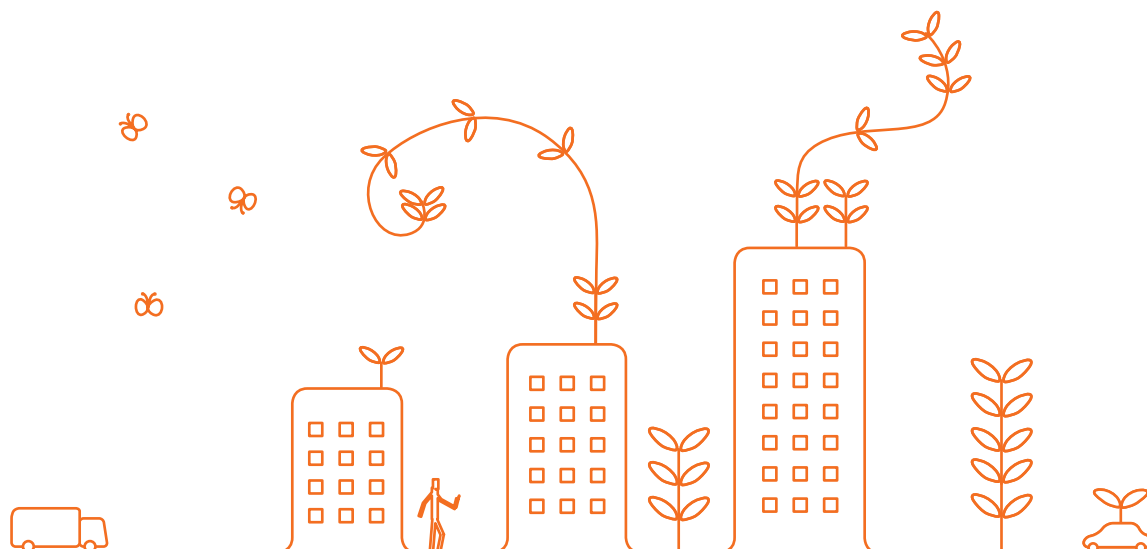
- リスク管理本部
- 渉外・広報本部
- 経営戦略本部
- 経営管理本部
- 総務本部
- 法務・知的財産本部
- 購買本部
- 情報システム本部
- カスタマーサービス本部
- 建設・運用企画本部
- 建設本部
- 技術企画本部
- 技術開発本部
- ネットワーク技術本部
- プラットフォーム開発本部

● KDDIビル

- 新宿事業所

● 文京事業所

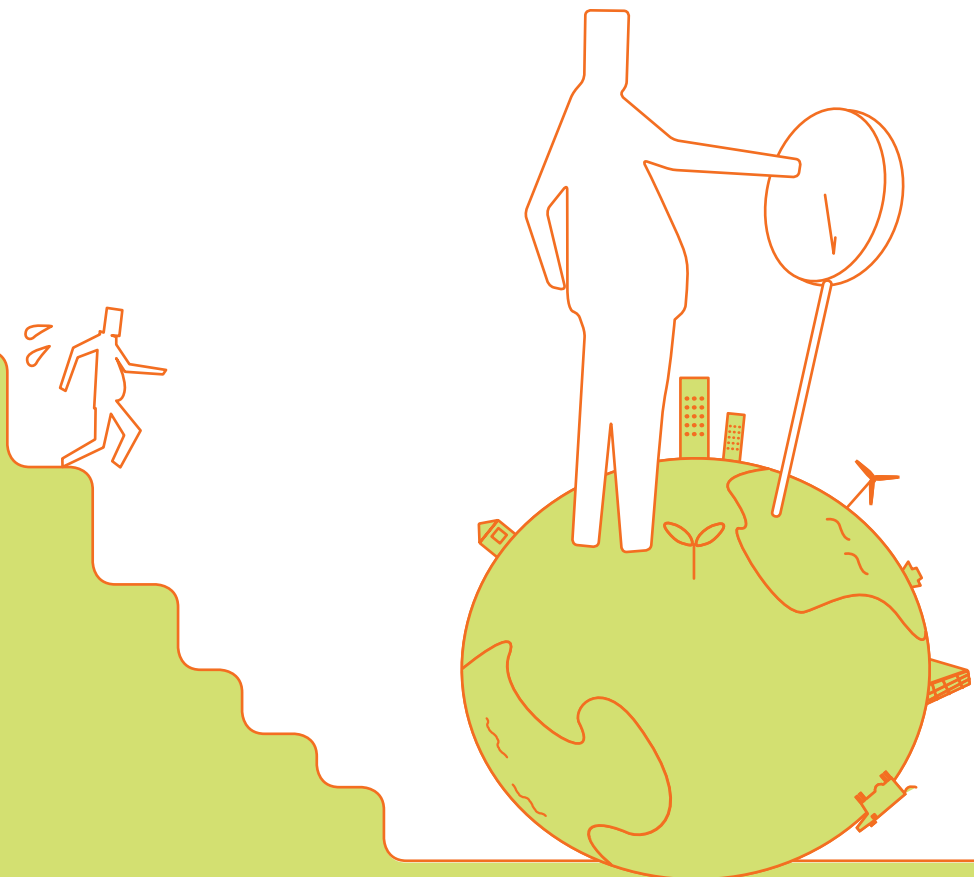
- ブロードバンド・コンシューマ営業管理部 カスタマーオペレーションセンター



2 むだをへらす

省エネルギー・省資源への取り組み

「へらす」は地球を守る大切なキーワードのひとつです。
それはみんなでエネルギーや資源のムダを「へらす」ことが
地球温暖化や資源の枯渇など、環境問題の解決につながるから。
世界で、日本で、KDDIで、「省エネ・省資源」が進んでいます。



地球温暖化防止に向けて

現在、地球全体の温度が上昇する「地球温暖化」が、地球の歴史上かつてないほどの急スピードで進んでいます。この地球温暖化で、自然災害の増加や海面の上昇、農作物への悪影響など、世界的な環境問題の発生が心配されています。その原因とされているのがCO₂（二酸化炭素）をはじめとした「温室効果ガス」。温室効果ガスの削減は、世界共通の課題です。

2005年2月には、先進国などに温室効果ガスの削減を義務付けた「京都議定書」が発効し、日本でも国をあげた取り組みが進められています。KDDIでは、地球温暖化防止を特に重要な課題の一つとし、省エネルギー・省資源を通じた温室効果ガス削減に努めています。

京都議定書について

「京都議定書」とは、CO₂など6つの温室効果ガスの削減目標を国際的に定めたもの。1990年を基準として、先進国全体で、2008年～2012年の間に約5%減らすことを目指しています。

日本の削減目標は6%。ただし、温室効果ガス排出量は2003年の時点で1990年から8%増えているため、合計14%の温室効果ガスを減らさなければなりません。目標を達成するために、社会全体で真剣な取り組みを進めていくことが求められています。

KDDIの温室効果ガス排出量

KDDIが使用する電力や燃料から算出される温室効果ガス排出量（CO₂換算）は、2004年度は432,907トンとなり、2003年度比3.8%増となりました。これは主にau携帯電話サービス用の基地局が増加したことによるものです。

サービス拡大と省エネルギーの両立

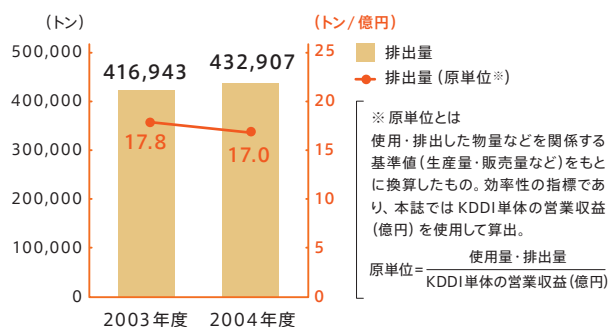
KDDIの温室効果ガス排出量の中で特に大きな割合を占めるのが、お客さまにご満足いただけるサービスをご提供するための「通信設備の電力」です。

情報通信技術が急速に進歩する中で、KDDIがお客さまにご提供するサービスの範囲・規模は拡大し、その内容も成長し続けています。例えばKDDIの携帯電話サービス「au」。5年前と比較して、お客さまのご契約数は約2倍になりました。サービス地域も拡大され、内容も通話に加えてEメールの送受信・インターネットサービスへと進化しています。

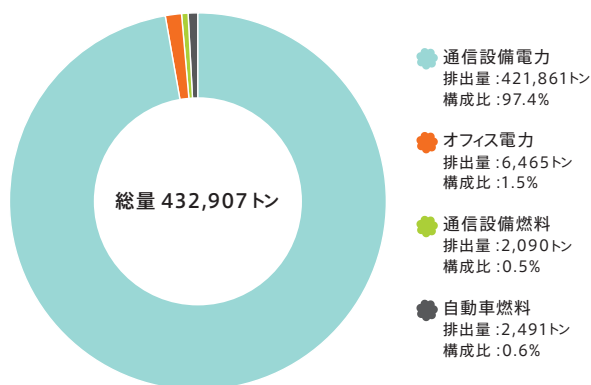
そんな中、確実にサービスをお届けするための設備の拡充は、電力使用量を増加させることになり、温室効果ガス排出量の増加にもつながってしまいます。

「お客さまに便利」で、しかも「環境にやさしい」サービスを。とても難しい課題ですが、KDDIは取り組み続けます。

KDDIの温室効果ガス総排出量（CO₂換算）



要因別温室効果ガス排出状況（CO₂換算・2004年度）



設備の省エネルギー

自然エネルギーの導入

ソーラー発電システムをはじめ、自然エネルギーの導入に取り組んでいます。

2005年1月には日本最大の衛星通信施設、山口衛星通信所にある「KDDIパラボラ館」で、ソーラー発電システムの運用が始まりました。館内の照明や空調の大半は、太陽光によって発電された電力で動いており、館内では発電量などの計測データをリアルタイムに見ることができます。

また、2003年から、ソーラー発電システムですべての使用電力をまかなう携帯電話基地局を運転しています。(北海道石北峠局および中チャンベツ北局/2005年3月末現在)



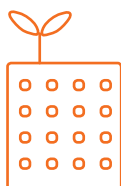
山口衛星通信所「KDDIパラボラ館」のソーラー発電システム

省エネ型設備の導入・設備運用の効率化

空調機器に省電力装置（インバータ装置）を設置したり、今までの設備を省エネルギータイプに変えることで、事業用電力の削減に努めています。また、設備を統合したり運用方法を見直すことで、省エネルギーを進めています。



設備の省エネルギー点検



2004年度の主な省エネルギー施策

名称	場所	施策の内容
小山ネットワークセンター	栃木県	高効率な空調機器（ターボ冷凍機）への更改
KDDIビル	東京都	空調機器へのインバータ装置設置
広島第2ネットワークセンター	広島県	省エネルギータイプの電源機器導入 運用効率化による電源機器（変圧器）の稼働停止
仙台第2ネットワークセンター	宮城県	省エネルギータイプの空調機器導入

オフィスの省エネルギー

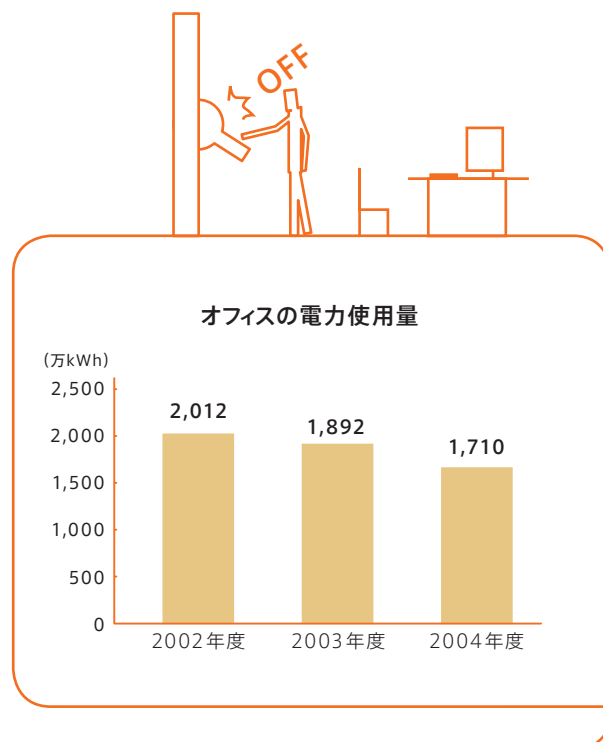
スイッチオフで身近なエコを

KDDIのオフィスでは、OA機器の省電力設定やこまめな電源オフ、退室時や昼休みの消灯の徹底、冷暖房温度の適切な設定などで、省エネルギーに取り組んでいます。

また各事業所では「省エネチェックシート」を使用して毎日の点検を行っています。2004年度のオフィスにおける電力使用量は業務の効率化によるオフィス間の統合が進んだこともあり、2003年度と比較して9.6%、182万kWh減少しました。

2005年6月からは夏期の「ノーネクタイ・ノー上着運動」を実施し、オフィスの冷房温度を28℃に設定。環境にやさしく、効率的に業務を行っています。

できることから確実に。KDDIでは今後も社員一人ひとりが省エネルギー活動に取り組んでまいります。



電子化で省資源

インターネット『料金お知らせサービス』

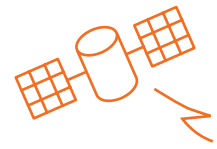
インターネット『料金お知らせサービス』は、携帯電話やパソコンなどで、お客さまが月々のご請求額や明細情報・領収情報などをご確認いただけるサービスです。毎月お客さまに郵送していたご請求書を電子化しました。このサービスにご加入いただくことで、紙資源や郵送に必要なエネルギーを節減。温室効果ガスや廃棄物の削減にもつながります。

2005年3月末時点でインターネット『料金お知らせサービス』ご利用数は約187万件。2004年度に節減した紙資源は約476トン（A4用紙換算11,903万枚）となりました。さらに2005年5月から、国際電話や長距離電話、インターネットサービスといった固定通信サービスと、au携帯電話のご請求書を1通にまとめる『KDDIまとめて請求』を開始し、さらなる省資源に取り組んでいます。

社内文書の電子化による紙使用量の削減

社内決裁のための稟議書や、人事異動に伴う申請書など、さまざまな社内文書を電子化し、紙使用量の削減に取り組んでいます。2004年度の電子化対象文書は約75,500件。およそ1.2トン（A4用紙換算29万枚）の紙資源を削減することができました。また、電子化した文書をシステム処理することで、決裁期間の短縮などの業務効率化も進めています。

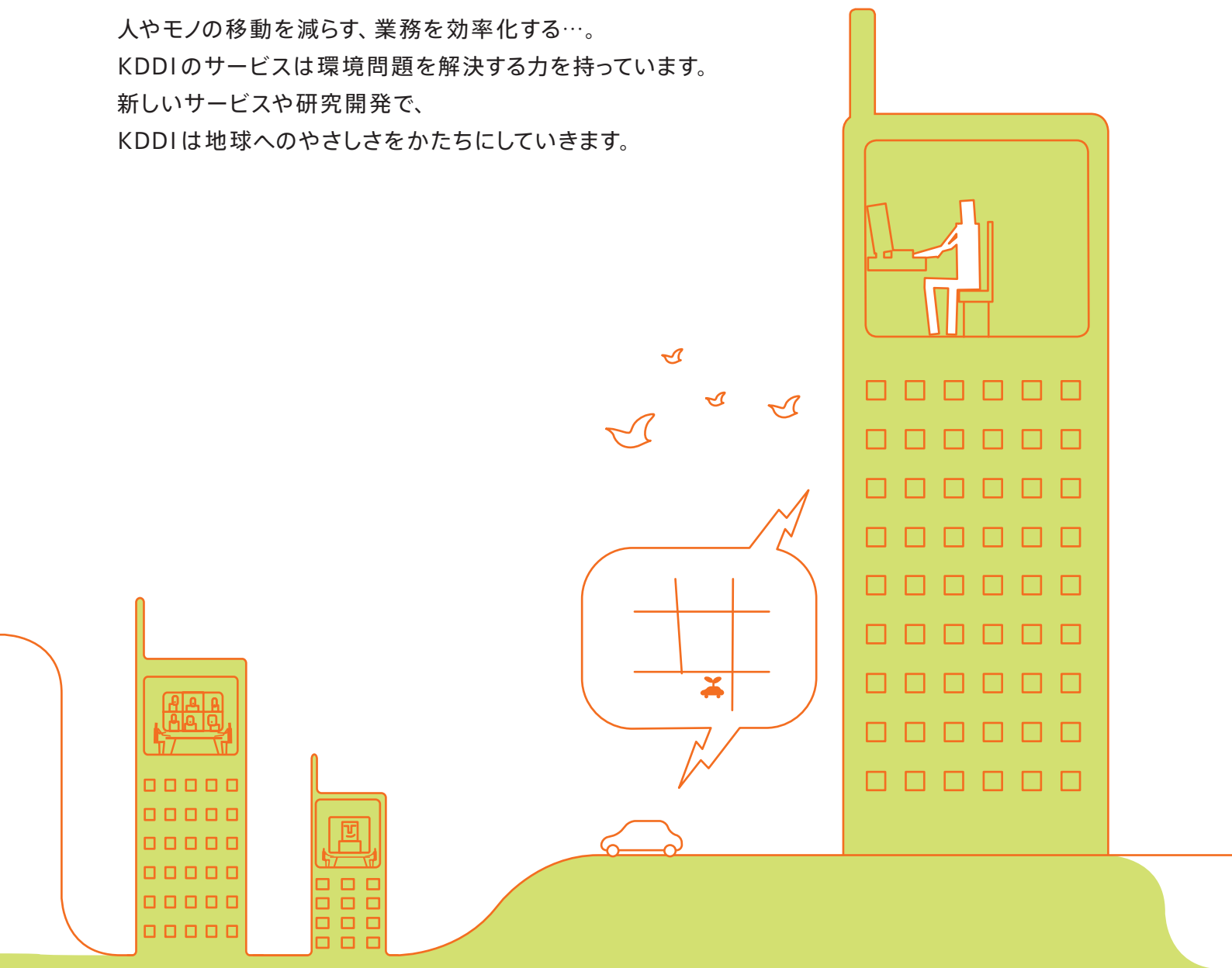




3 あたらしい技術

技術を活かした環境貢献

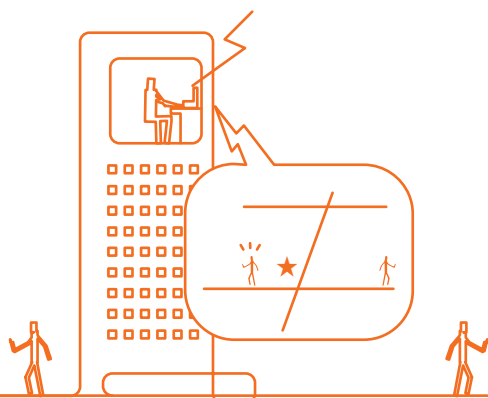
人やモノの移動を減らす、業務を効率化する…。
KDDIのサービスは環境問題を解決する力を持っています。
新しいサービスや研究開発で、
KDDIは地球へのやさしさをかたちにしていきます。



位置情報提供サービス 『GPS MAP』

『GPS MAP』は、auのGPS機能付き携帯電話を利用した位置情報提供サービスです。パソコン上の地図に、GPS携帯電話を持った営業マンや配送車両などの現在位置をリアルタイムに表示したり、最寄りの担当者に向けてメッセージを送ることができます。

さまざまな業務がよりスムーズになることに加え、車やバイクの運行が効率化することで、使用する燃料や排気ガスの削減が期待できます。



TV会議システムの活用

KDDIでは社内全事業所にTV会議システムを設置して会議の効率化を進めています。2004年度は約3,000回、延べ14,000事務所でTV会議を開催し、会議へ出席するための出張を減らすことができました。これにより、交通機関などでの移動に必要なエネルギーを削減。これまで移動にかかっていた時間も、有効に活用できるようになりました。

さらに、社内セミナーや社内行事の放映により、さまざまな知識・ノウハウの共有化や、社内コミュニケーションの強化を進めています。



携帯電話向け 小型燃料電池の開発

(株)東芝および(株)日立製作所と、それぞれ共同で携帯電話に搭載できる小型の燃料電池を開発しています。

燃料電池とは、水素と酸素の化学反応で電気を作る「発電機」に近い仕組みの電池です。今までの充電電池と比べてたくさんの電力を出力できるとされています。

さらに、燃料を加えれば充電時間なしで使用でき、発電の際に電気以外に発生するものは水と少量のCO₂だけ。便利でクリーンなエネルギーとして注目されています。



燃料電池（充電器タイプ）の試作品



大型リチウムイオン電池の 技術研究

慶應義塾大学SFC研究所との連携プロジェクト「エルスクエアプロジェクト」に参加して、大型リチウムイオン電池の普及に向けた技術研究を進めています。

リチウムイオン電池は現在KDDIの設備に使用している鉛蓄電池よりもエネルギー密度が高いため、省スペース化や省資源化を実現できます。また、繰り返し充電や放電を行っても性能が落ちにくいいため、発電量の変動が大きいソーラー発電や風力発電などと組み合わせた活用や、深夜に充電した電力を昼間使うことで電力使用ピークを下げる「ピークカット」への活用が期待されています。

さらに、鉛や水銀・カドミウムなどの有害物質を含まずリサイクルにも適しています。KDDIでは今後も、さまざまな設備への導入に向け、検討を進めてまいります。

4 再生する

リサイクルへの取り組み

缶やビン、ペットボトル。テレビや冷蔵庫、パソコン、自動車。

みんなリサイクルできる、大切な資源です。

ケータイだって、リサイクル。

KDDIのリサイクルへの取り組みをご紹介します。



au shop

日本の携帯電話とリサイクル

1年で約半分の携帯電話が入れ替わる?

日本で使われている携帯電話 (PHS などを含む) は約 9,150 万契約^{※1}、人口に対する普及率は 71.6%^{※2} に達しています。

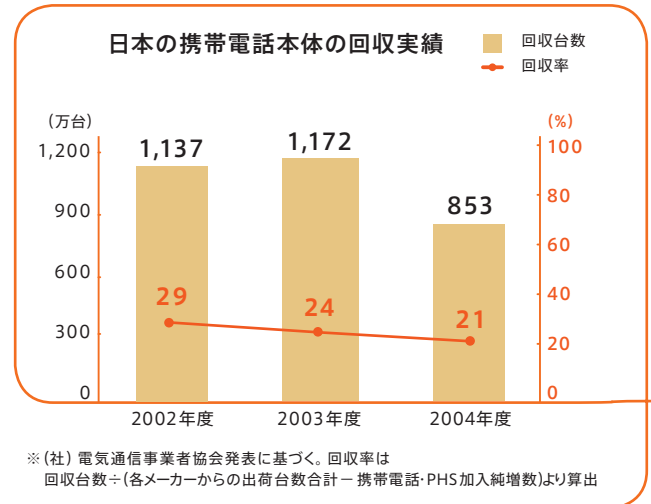
新機能の携帯電話も次々と発売され、販売台数は年間 4,000 ~ 5,000 万台に達しています。これは、携帯電話の約半分が1年間のうちに機種変更されている計算となります。「使い捨て社会」から「循環型社会」への移行が求められる中、使用済み携帯電話の回収・リサイクルは大きな課題になっています。

※1 2005年3月末現在 (社) 電気通信事業者協会発表

※2 総務省統計局発表の人口推計月報 (2005年4月1日現在 概算値) に基づき算出

伸び悩む、携帯電話のリサイクル

ところがこの携帯電話のリサイクル、缶やビン、ペットボトル、家電製品など他の「資源」と比べて進んでいないのが現状。回収率もここ数年、伸び悩んでいます。それは一体どうしてでしょう?



どうしてリサイクルしないんですか?

「携帯電話・PHSのリサイクルに関するアンケート調査」より
(社) 電気通信事業者協会・情報通信ネットワーク産業協会 実施 (2005年6月発表)

- 古い携帯電話をリサイクルせず持ち帰る …… 1年間に機種変更・解約をした人の **76.0%**
 - 携帯電話を保管する理由
 - ・コレクション・思い出として取っておく (29.9%)
 - ・写真のアルバムとして使う (12.7%)
 - ・個人情報が漏れるのが心配 (24.4%)
 - ・ゲーム機として使う (7.8%)
 - ・電話帳として使う (21.6%)
 - ・デジタルカメラとして使う (6.3%)
 - ※複数回答による
 - ・データのバックアップ用に使う (18.8%)
 - ・目覚まし時計として使う (5.2%)
 - ・子供の遊び道具に使う (18.2%)
- 携帯電話を「ゴミ」として捨てた …… 1年間に携帯電話を処分した人の **35.6%**
- ショップで回収され、リサイクルされることを知らない …… 全体の **45.4%**

ご存知ですか? 携帯電話のリサイクル。
KDDIでは、大切な携帯電話をリサイクルしていただくために
さまざまな取り組みを進めています。

携帯電話は資源のかたまり

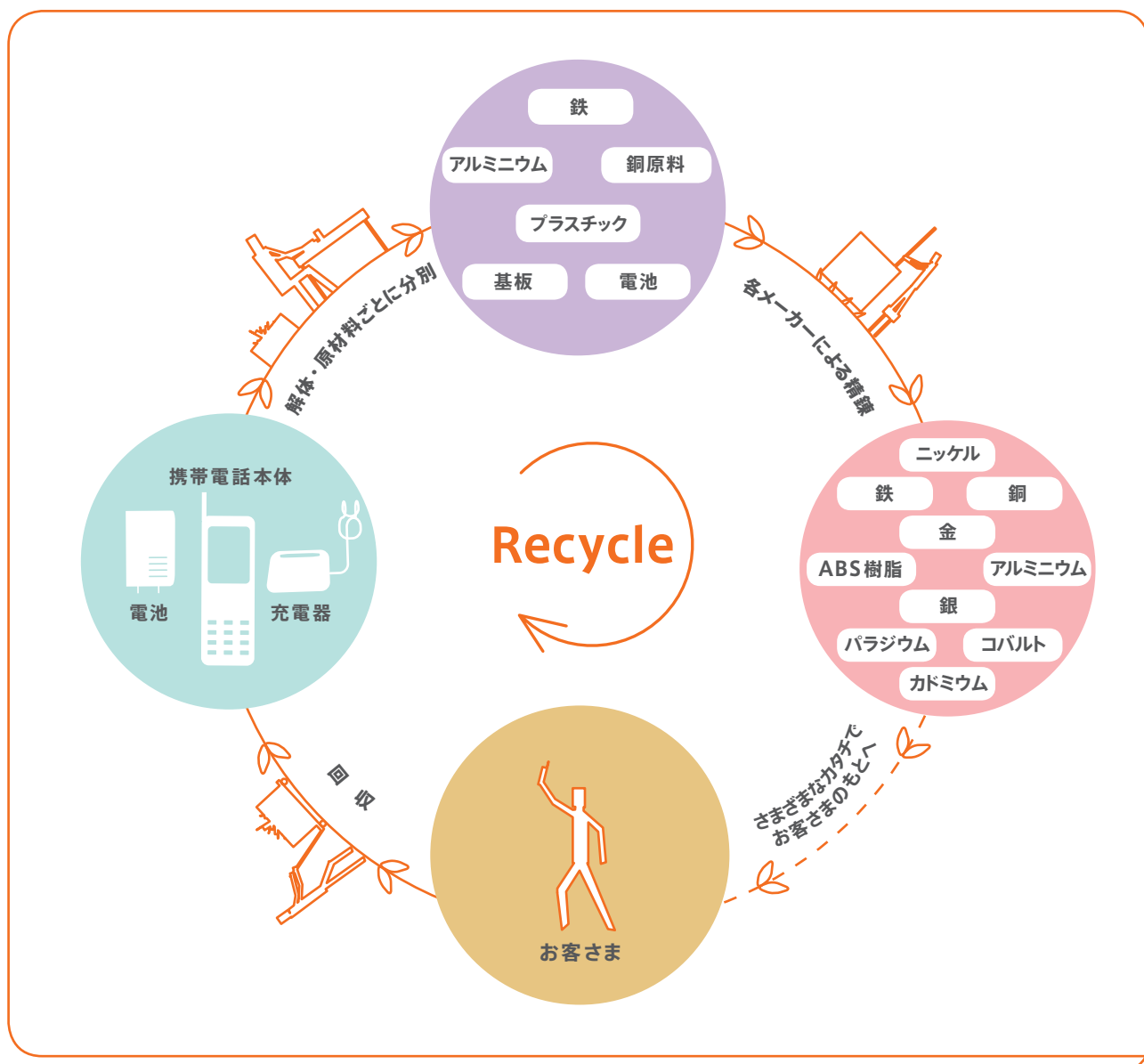
使用済み携帯電話を、「燃えないゴミ」にしていますか？それは、実は地球やみんなにとっても「もったいない」こと。本体や電池、充電器には、少しずつですが金や銀などの貴重な資源が入っているからです。「ゴミ」にするのは簡単だけど、ちょっとがんばって「リサイクル」すればさまざまな資源に生まれ変わります。



環境にやさしい「マテリアルリサイクル」

KDDIでは、素材を素材として再利用する「マテリアルリサイクル」に取り組んでいます。このリサイクルで使用済み携帯電話は、ほぼ100%が金属やプラスチックなどの資源に生まれ変わることができます。

使用済み携帯電話は細かく分解され、その後素材ごとにリサイクル処理されます。この素材ごとの処理が、焼却や破碎などのプロセスを減らし、環境にさらにやさしいリサイクルを実現するのです。



リサイクルの舞台裏

1. 回収

お客さまにご協力いただき、ショップの店頭で回収された携帯電話・電池・充電器が、リサイクルのための工場に運ばれます。



ショップで回収いたします。

2. 分解

すべての携帯電話を細かく分解。携帯電話としての役割を終えます。1台の携帯電話から10程度の部品に分けられます。



こんなに細かくなりました！

分解された部品は、原材料ごとに別の工場へ送られます。



これは原材料ごとにぎゅっとつぶしてまとめたものです。

3. 新たな資源へ「生まれ変わる」

1台1台からはわずかでも、集まれば立派な資源。原材料ごとに別の工場で、さまざまなリサイクル処理を行い、新たな資源に生まれ変わります。



材料を溶かし込むことも。

4. 新しい製品に「生まれ変わる」

たとえば、金・銀などの希少金属は電子部品に、銅は銅線に、鉄は鉄パイプに、プラスチックはおもちゃに……。携帯電話からリサイクルされた資源が、新しい製品に生まれ変わります。中にはもう一度携帯電話になるものも。生まれ変わってもあなたのそばに。あなたと携帯電話とのつながりは、続きます。



別のモノになってあなたのところに戻ってきます。

KDDIの取り組み

ショップ店頭で携帯電話を回収

KDDIではauの販売店「auショップ」「PiPit (ピピット)」の店頭で、不要となった携帯電話の本体・電池・充電器を回収しています。また、オリジナルグッズのプレゼントなど、回収にご協力いただいた方を対象にしたキャンペーンを年に数回実施しています。

おかげさまでお客さまにご協力いただき、2004年度は約224万台の携帯電話・約182万個の電池・約101万台の充電器を回収・リサイクルすることができました。



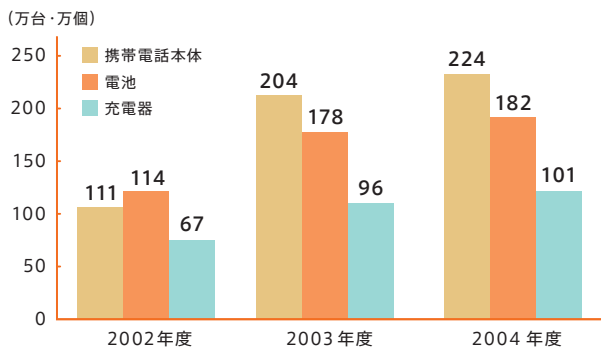
すべての携帯電話を無料回収

携帯電話の回収・リサイクルは、実はたくさんの会社の共同活動。KDDIは、携帯電話・PHS事業者および製造メーカー各社による自主活動組織「モバイル・リサイクル・ネットワーク」に参加しています。「モバイル・リサイクル・ネットワーク」では会社と会社の垣根を越えて、全国8,700店舗（2005年3月末現在）で事業者・メーカーにかかわらず無料で回収・リサイクルを行っています。



モバイル・リサイクル・ネットワーク
携帯電話・PHSのリサイクルにご協力を。

KDDIの携帯電話回収実績



みんなで一緒にリサイクル

携帯電話は皆さまの手でお店にお持ちいただくことでリサイクルされ資源となり、新しい製品として生まれ変わることができます。皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。

ご注意

お預かりした携帯電話本体・電池・充電器はリサイクルするためご返却できません。プライバシー保護のため、携帯電話に保存されているお客さまの情報（アドレス帳・通信履歴・メールなど）は「オールリセット機能」(次ページ参照)などをご利用いただき、事前に消去してください。

事業用設備のリサイクル

KDDIでは事業用設備のリサイクルにも積極的に取り組んでいます。更新などで不要となった設備は、リサイクル業者による分解・分別・回収で、再資源化しています。2004年度は、約223トン再資源化しました。

au携帯電話の充電器共通化

KDDIは、2005年度に発売されたau携帯電話から充電器（ACアダプター）の共通化を順次進めています。今までは機種ごとに変えなければならなかった充電器ですが、この共通化によって機種変更しても不要な充電器が出ることがなくなります。

携帯電話 データの保護について

「データを古い携帯電話に保存しておきたい」、「個人情報漏れるのが心配」。携帯電話をリサイクルしない多くのお客さまがあげている理由です。お客さまが携帯電話に保存されたデータはとても大切なもの。KDDIではデータのバックアップや個人情報保護のための取り組みを進めています。携帯電話のリサイクルの際にぜひご利用ください。

『EZメモリーポケット』でバックアップ

『EZメモリーポケット』は、au携帯電話に保存したアドレス帳や写真・ムービーなどの大切なデータを、簡単な操作で専用サーバに保管できるサービスです。保管データはいつでも簡単にダウンロードできる上、パソコンからも利用・編集が可能です。2005年6月からは、アドレス帳の変更内容を毎日自動的に更新する機能を追加し、バックアップ可能なアドレス件数も最大1,000件に拡大しました。

※有料サービスとなります。

情報料：基本サービス（データ容量2MB）月額105円 / オプション追加（2MB+18MB）月額210円（税込み）

※機種により機能や保管できるデータが異なります。

※データの保管・ダウンロードの際には別途バケット通信料が発生します。

※有料コンテンツで購入した画像など、著作権付きデータは保管対象外となります。



携帯電話破砕機の導入

2005年9月よりauショップ・PiPitに携帯電話の破砕機を順次設置し、リサイクルの際に、お預かりしたその場で携帯電話に穴を開けて内部の電子基板を破壊します。これで、万一データが残っていても安心です。



au携帯電話の「オールリセット」機能

au携帯電話には「オールリセット」機能が搭載されており、携帯電話内のすべての情報を一度に消去することが可能です。

【使い方】

- ① メニュー画面より「機能」を選択
- ② 機能画面より「プライバシー」または「セキュリティ」を選択※1
- ③ 「リセット」を選択
- ④ 「オールリセット」を選択
- ⑤ 「ロックNo」※2を入力
- ⑥ お客さまの登録したすべての情報が消去され、すべての設定がお買い上げ時の状態になります。

※1 機種によって名称が異なる場合があります。

※2 au携帯電話本体の各種設定などを変更する際に必要な暗証番号です。お客さまが必要に応じて変更することが可能です（お買い上げ時には「1234」が設定されています）。

ご注意

- ・一度消去されたお客さまの情報を元に戻すことはできません。
- ・操作の詳細につきましては、au携帯電話に付属の取扱説明書でご確認ください。

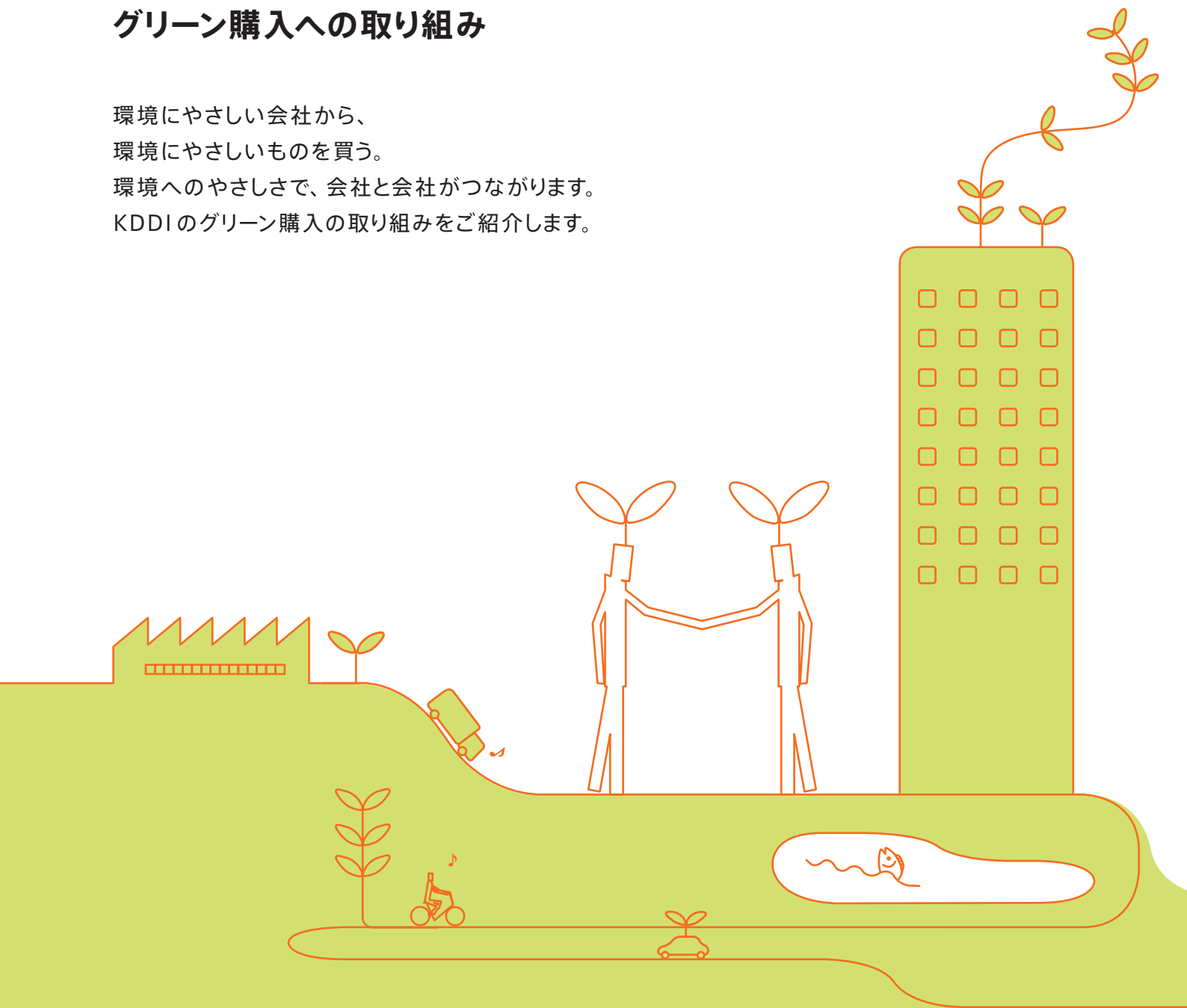




5 エコでえらぶ

グリーン購入への取り組み

環境にやさしい会社から、
環境にやさしいものを買う。
環境へのやさしさで、会社と会社がつながります。
KDDIのグリーン購入の取り組みをご紹介します。



KDDIグリーン購入ガイドライン

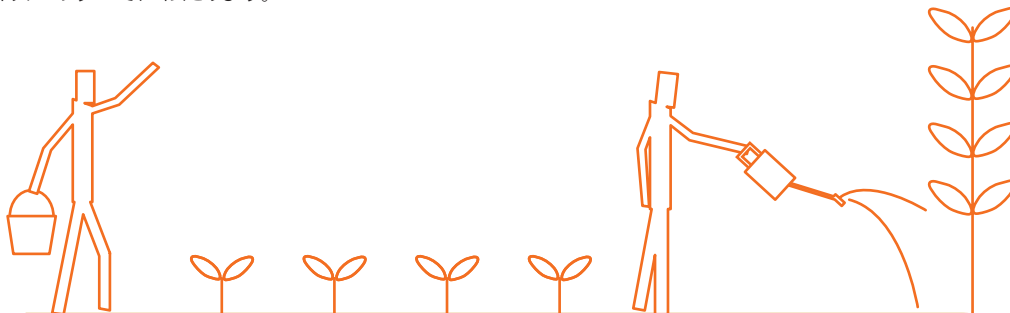
グリーン購入とは、製品・物品・工事・サービスなどを購入（調達・購買）する際に、その製品などが環境へ与える負荷を考えて、「負荷ができるだけ少ないもの」を「環境に配慮しているお取引先さま」から優先的に購入しようとするものです。つまり、グリーン購入は環境との調和を考える会社同士が生み出す取引。今その会社と会社の取り組みの輪は、着実に広がっています。

KDDIは2003年2月に定めた「KDDIグリーン購入ガイドライン」を指針として、グリーン購入を推進しています。グリーン購入の対象はKDDIが購入するすべての製品やサービス。環境にやさしい経営や活動を行っている会社から環境にやさしいものを選び、購入することを定めています。また、その範囲は製造工程から販売・使用の段階、さらに廃棄段階といった製品サイクルのすべてにわたります。



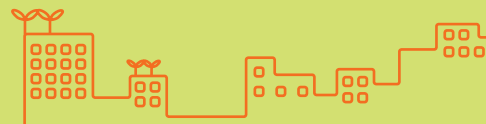
グリーン購入ガイドラインは、KDDIの環境保全活動に関するホームページ「ECO by KDDI」でごらんいただけます。

<http://www.kddi.com/corporate/kddi/kankyo/>



グリーン購入ガイドラインのビジョン 「もう地球を汚さない」

- 1) 地球を汚すような計画を立てない（開発段階）
- 2) 地球を汚すような物を買わない・売らない（購入・販売段階）
- 3) 地球を汚すような使い方をしない（使用段階）
- 4) 地球を汚すような捨て方をしない（廃棄段階）



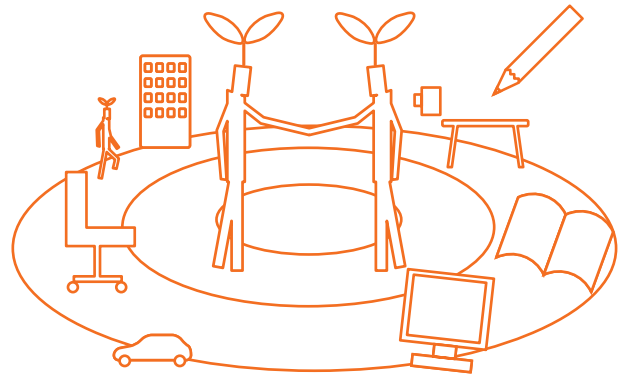
KDDI グリーン購入の仕組み

グリーン購入の範囲

- ・すべてのお取引先さま
- ・すべての製品・物品・工事・サービスを対象にします。

購入先や購入する製品の「決め方」

- 従来の基準（「品質」「価格」「納期」「サービス」など）に
- ・購入する製品やサービスなどの「環境に対する影響」
 - ・お取引先さまの「環境への取り組み」
- を加えて購入先や購入製品を決定します。



例えば・・・

■省エネルギー・省資源について

製品の製造やサービスの提供時に必要な「エネルギー」や「資源」の量を評価しています。

■環境に有害な物質の使用について

購入する製品や製品の製造工程において「使用しない物質」「使用を制限・削減する物質」を指定。環境に有害な物質の使用量を評価しています。

■製品のリサイクルについて

製品の素材や設計において、「リサイクルしやすさ」を評価しています。

■環境に対する方針・体制について

お取引先さまの環境に対する「取り組み方針」や「取り組み体制」、また「活動に関する情報の公開」などの状況を評価しています。

環境



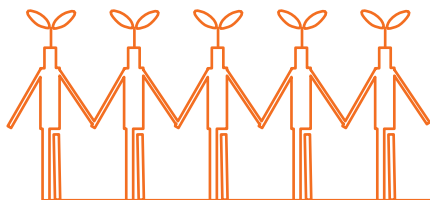
お取引先さまとともに

グリーン購入を進めるためには、お取引先さまのご理解・ご協力が不可欠です。KDDIでは毎年「グリーン購入説明会」を開催し、お取引先さまへのご説明とご協力のお願いを行っています。また、購買本部ではグリーン購入を中心テーマとした環境マネジメントシステムを構築しており、2004年7月にはISO14001認証を取得しました。取得を通じて得た経験を活かし、お取引先さまのISO14001認証取得活動の支援にも積極的に取り組んでいます。

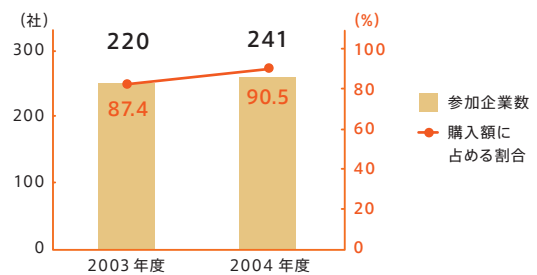
KDDIのグリーン購入にご協力いただいているお取引先さまは2005年3月末時点で241社。購入額に占める割合は90.5%となりました。2003年度比でそれぞれ21社、3.1%増加しており、活動は着実に広がっています。今後もお取引先さまとともに、一層の活動推進に努めてまいります。



説明会の様子



グリーン購入の状況

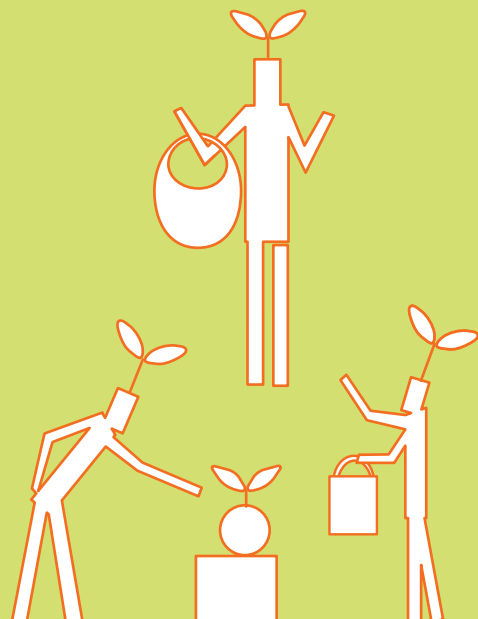


一人ひとりのグリーン購入

～社会全体で取り組むために～

「グリーンコンシューマー」という言葉をご存知ですか？これは「環境に配慮された商品やサービスを、環境に配慮した方法で購入するお客さま」のこと。見た目や価格だけでなく、環境へのやさしさを商品選びの基準にする、スーパーへマイバッグを持って行く・・・。毎日のお買い物の中で、ちょっとした環境へのやさしさを持てば、誰でもグリーンコンシューマーになることができます。会社のグリーン購入と同じように、お客さま一人ひとりが環境のことを考えたお買い物をすれば、会社の商品開発やサービス方針にも影響します。グリーン購入の輪が広がるのです。

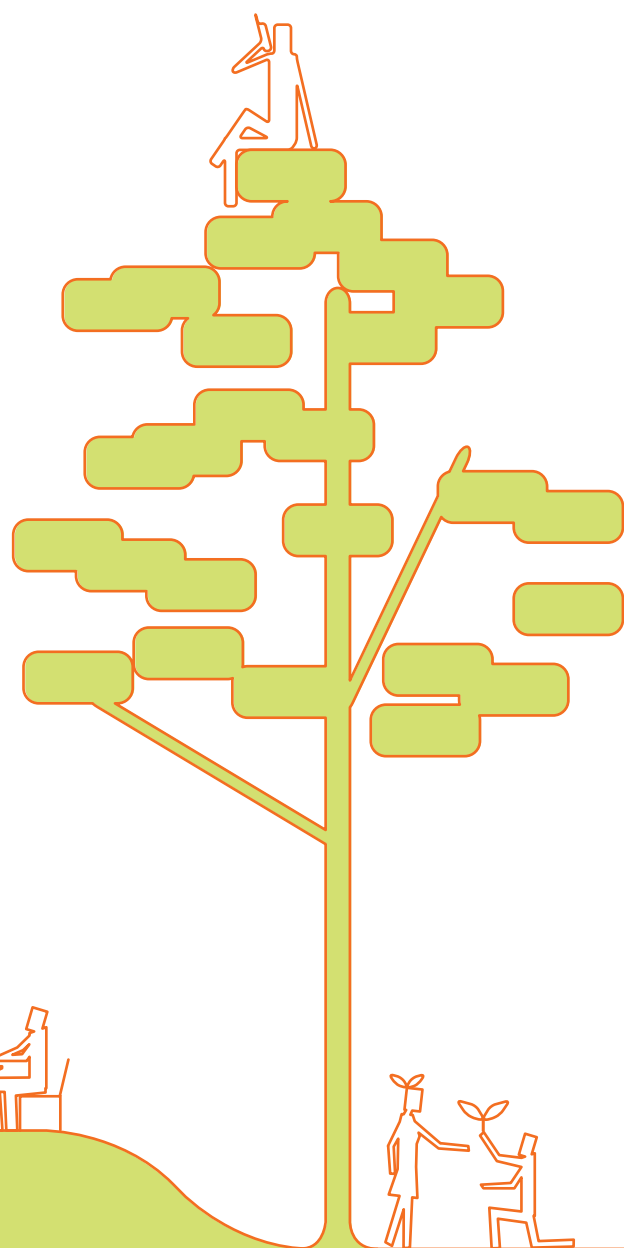
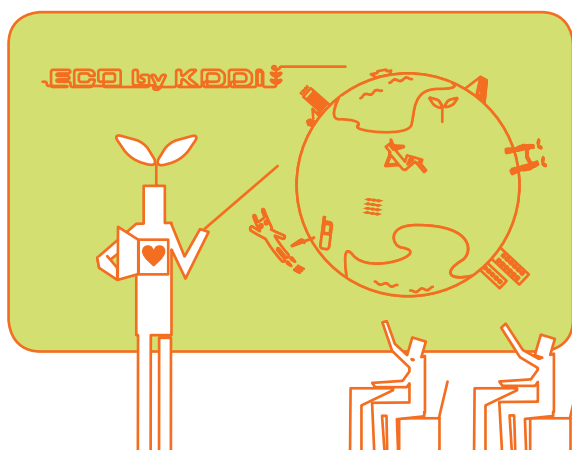
この輪を広げるために、KDDIもお客さまにお届けする商品・サービスを、さらに環境にやさしいものにするさまざまな取り組みに努めてまいります。



6 つたえる

コミュニケーションと情報開示

みんなで一緒に協力すれば
一人ではできなかったこともきっとできる。
KDDIは社員や地域の皆さまとの
コミュニケーションを大切にしています。



地域における環境貢献

KDDIの各事業所では、地域の皆さまと協力し、地域清掃や環境イベントなど、環境を守るための活動に積極的に参加しています。



「クリーン太田川」活動(中国総支社)



千代田区一斉清掃活動(飯田橋事業所)

「2005年日本国際博覧会」 (愛・地球博)への協力

2005年3月25日より9月25日まで開催される環境博覧会「2005年日本国際博覧会」(愛・地球博)に参加しています。KDDIは、最新のIT技術を活用。博覧会のスムーズな運営をサポートするために、公式ホームページ・観覧予約システムの運営や、ハイブリッド情報端末「愛・MATE」の開発・提供などを行っています。

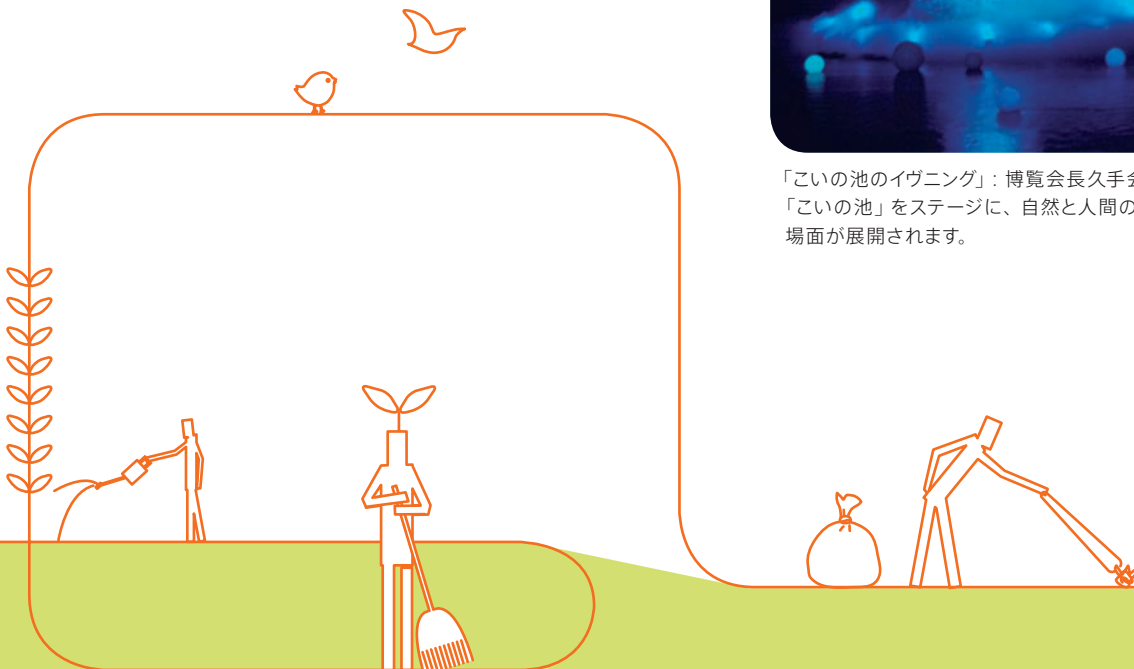
また、博覧会のテーマ「自然の叡智」を表現し、サブテーマ「循環型社会の実現」のメッセージを伝えるナイトイベント「こいの池のイヴニング」に協賛しています。



来場者の方へのサービスや運営スタッフの業務支援に利用される「愛・MATE」



「こいの池のイヴニング」：博覧会长久手会場センターゾーンにある「こいの池」をステージに、自然と人間の関わりを表現した様々な場面が展開されます。



社員とのコミュニケーション、 教育活動

すべての社員がKDDIの環境活動を知り実践できるように、さまざまなツールを利用して、コミュニケーション、教育活動に取り組んでいます。

社員向けに活動紹介のホームページを公開し、活動報告や情報・資料提供を行うほか、各種研修やパソコンを使用したEラーニングによって環境教育を広く実施しています。また、今実践している活動についてもっと理解が深まるように社内報などの配布物を通じて周知を行っています。



新入社員研修での環境教育



社員向け活動紹介ホームページ



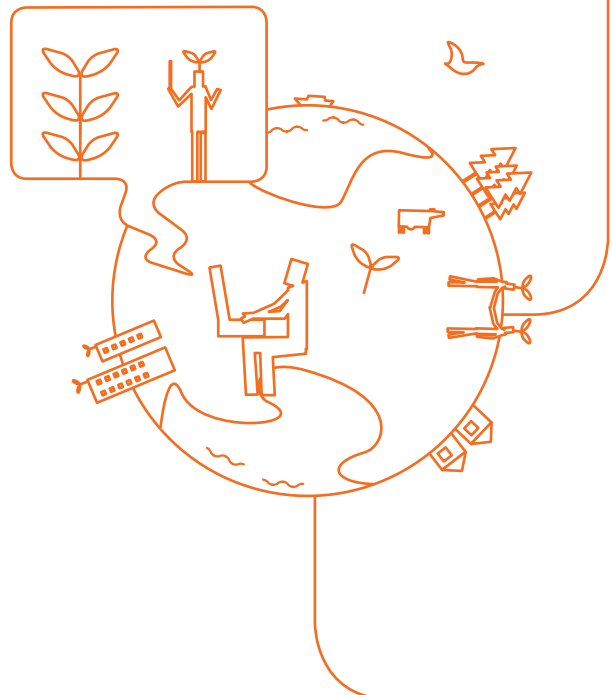
社内報による活動紹介

インターネットを通じて

KDDIのホームページでは、サービス・商品などの紹介とともに、環境への取り組み状況を紹介しています。今後もインターネットの特徴である即時性や双方向性を活用して、情報発信を進めてまいります。



環境保全活動に関するホームページ「ECO by KDDI」
<http://www.kddi.com/corporate/kddi/kankyo/>



地球の「今」を待ち受け画面に！ 『live earth』



2005年7月からau携帯電話向けに地球時計アプリケーション『live earth』の提供をはじめました。『live earth』は、NPO（非営利団体）「Think the Earth プロジェクト」による、企業とNPOとが協力して行う「協働プロジェクト」の一つです。

『live earth』は世界各都市の時刻やリアルタイムの日影線、雲画像データをご覧いただける地球時計アプリケーション。待ち受け画面に設定することも可能です。一部の機種にあらかじめアプリケーションを搭載するほか、その他のEZアプリ（BREW®）対応機種については、ダウンロードすることによりお使いいただけます。

普段持ち歩く携帯電話から地球の「今」を感じることで、みんなが地球のことを考える「きっかけづくり」をしたい・・・『live earth』にはそんな思いが込められています。また、情報料の一部は「Think the Earth プロジェクト」への協賛金となり、地球の未来を創るための環境・社会貢献活動に利用されます。

※提供サイト『live earth』（情報料：月額105円〈税込み〉）
サービス開始当初は、雲画像取得以外の機能は無料でご利用いただけます（今後さまざまなサービスメニューを追加予定）。
雲画像の更新には別途パケット通信料がかかります。

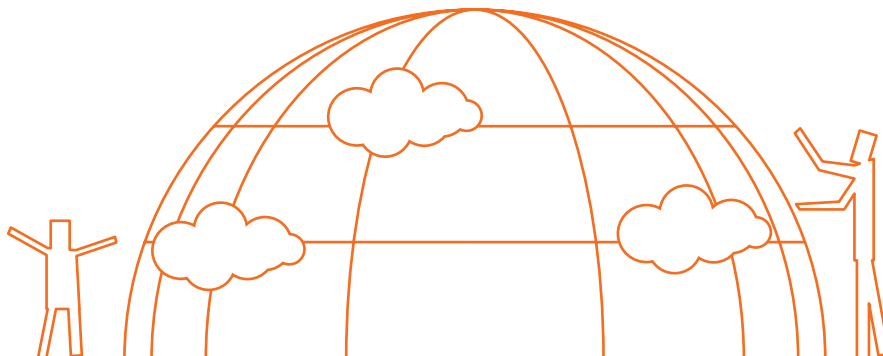
※Think the Earth プロジェクト：「エコロジーとエコミーの共存」をテーマに、企業やNPOとともに新しい視点でメッセージ性のある商品やサービスを開発したり、広く情報発信を行いながら、環境問題や社会問題に対する関心を高める活動を行っている非営利団体（2001年2月発足）
<http://www.ThinktheEarth.net/jp/>



画面イメージ



2005年6月に行われた発表会の様子



環境保全活動の目標と実績

※達成状況のアイコンについて 達成 一部未達成

項目	2004年度目標	2004年度実績	達成状況	2005年度目標
環境マネジメントシステムの構築 (ISO14001 認証の取得拡大)	■環境マネジメントシステム構築範囲の拡大 ならびに ISO14001 認証の取得 ・飯田橋事業所コーポレート・サポート部門 (13 本部) ・購買本部 ・新宿事業所	2004 年 10 月 認証取得 2004 年 7 月 認証取得 2004 年 9 月 認証取得	ー 	■「全社統合型環境マネジメントシステム」構築に向け、引き続き構築範囲を拡大する ・事業部門を含む飯田橋事業所全体への ISO14001 認証範囲の拡大 ・地域拠点の ISO14001 認証取得推進 ■グループ企業の環境マネジメントシステム構築推進
	■事業用電力に関する中期省エネルギー計画の策定と各種施策の確実な実行 ・中期省エネルギー計画の策定 ・各種施策の確実な実行 ・省エネルギーに配慮した設備運用ルールを導入	2004 年 9 月 第一次計画を策定 (改正省エネルギー法 対象 26 事業所の施策策定) 中期省エネルギー計画に従い各事業所で施策を実施 施策全体で使用電力量を約 486 万 kWh 削減も、進捗に遅れあり (計画に対する進捗率 78%) 【主な実施施策】 ・小山ネットワークセンター (栃木県) 高効率な空調機器 (ターボ冷凍機) への更改 ・KDDIビル (東京都) 空調機器へのインバータ装置設置 ・山口衛星通信所「KDDIパラポラ館」(山口県) ソーラー発電システムの設置 など 改正省エネルギー法対象事業所 (26 事業所) に導入	ー 	■中期省エネルギー計画に基づく各種施策の確実な実行 ・第二次計画の策定 ・各種施策の進捗改善による削減効果の上積み 2004 年度未実施案件の速やかな実施と 2005 年度案件の進捗率 100% 達成 ■事業用電力全体で 2004 年度比 1% 以上の原単位排出量削減 ※原単位: 電力使用量 ÷ 単体営業収益
温室効果ガス排出量の削減	■中期省エネルギー計画に基づく改正省エネルギー法などの削減目標達成 ・対象事業所で 2003 年度比 1% 以上の原単位削減 ※原単位: 電力使用量 ÷ 単体営業収益	対象事業所全体では削減目標を達成したものの、26 事業所中 5 事業所で目標を未達成		■改正省エネルギー法等に基づく省エネルギー目標の達成 (継続) ・対象事業所で 2004 年度比 1% 以上の原単位排出量削減
	■オフィスにおける電力使用量の削減目標達成 ・全オフィスの合計電力使用量を 2003 年度比 1% 以上削減	オフィス電力使用量 1,710.3 万 kWh 2003 年度比 9.6% (182.1 万 kWh) 削減		■オフィスにおける電力使用量の削減目標達成 (継続) ・全オフィスの合計電力使用量を 2004 年度比 1% 以上削減
紙資源使用量の削減	■インターネット『料金お知らせサービス』(請求書電子化サービス) の加入促進を通じた紙資源使用量の削減 ・加入数目標 180 万件 (2005 年 3 月末)	加入数 約 187 万件 (2005 年 3 月末現在) 2003 年度比 約 56 万件増加 削減した紙資源 約 476.1 トン (A4 用紙換算 11,903 万枚)		■インターネット『料金お知らせサービス』の加入促進を通じた紙資源使用量の削減 ・加入数目標 267 万件 (2006 年 3 月末) ■『KDDIまとめて請求』の加入促進を通じた紙資源使用量の削減
	■社内文書の電子化促進 ・対象: 稟議書/人事異動に伴う各種変更申請/各種システム担当者届出 など	各種文書の電子化を予定通り実施 電子化件数 約 7.5 万件 削減した紙資源 約 1.2 トン (A4 用紙換算 29 万枚)		■文書電子化の継続的な拡大
紙資源使用量の削減	ー	全社における紙資源使用量 27,199.5 トン 2003 年度比 20.5% (4,622.0 トン) 増加 (内訳) ・オフィスにおける上質紙使用量 651.8 トン 2003 年度比 13.2% (75.9 トン) 増加 ・サービス、販売促進などに使用する印刷物 26,547.7 トン 2003 年度比 20.7% (4,546.1 トン) 増加	ー	■オフィスにおける上質紙使用量の削減推進 ■サービス、販売促進などに使用する印刷物の削減推進 ・発注数の適正化および発注・使用フローの効率化を検討
	■携帯電話回収の推進 ・回収数の維持・向上 (2003 年度回収数 本体 204.1 万台)	回収数 ・本体 224.1 万台 2003 年度比 20.0 万台増加 ・電池 182.3 万個 2003 年度比 4.8 万個増加 ・充電器 100.7 万台 2003 年度比 5.2 万台増加 全国キャンペーンの実施 (年 2 回)		■携帯電話回収の継続推進 ・回収数の維持・向上 ・キャンペーンなどを通じた周知活動の実施 ・リサイクルの更なる高度化を検討
廃棄物削減・リサイクルの推進	■産業廃棄物管理の徹底とチェック体制の強化	各部門ごとに適正な処理を実施 チェック体制の整備・強化の進捗に遅れあり		■産業廃棄物管理徹底とチェック体制の強化を継続 ・チェック体制/役割分担の明確化 ・チェック/相談窓口の設置
	■PCB 使用物品の適正管理	適正な保管・管理を継続		■PCB 使用物品の適正管理を継続
グリーン購入の推進	■グリーン購入の継続的な推進 ・参加企業数の増加 ・発注総額に占める割合 95%	協力企業数 241 社 (2005 年 3 月末現在) 2003 年度比 21 社増加 発注総額に占める割合 90.5% 2003 年度比 3.1% 増加		■グリーン購入の継続的な推進 ・参加企業数の増加 ・発注総額に占める割合 98%
社内外との環境コミュニケーションの推進	■社内外へのタイムリーな情報開示を通じた環境コミュニケーションの推進	(社外向け) ・社外向け企業ホームページにおける情報開示内容強化 (ページリニューアル) (社内向け) ・各種研修や Eラーニングを通じた環境教育の実施 ・イントラネット/社内報などを通じた社内啓蒙の推進		■環境コミュニケーションの継続的な推進 (社外向け) ・環境報告書の作成/配布 ・社外向け企業ホームページにおける情報開示強化・継続 (社内向け) ・各種ツールを通じた環境教育・社内啓蒙の実施 ・イントラネット/社内報などを通じた社内啓蒙の強化・継続

環境データ

■使用するもの

項目	大分類	中分類	単位	2003年度	2004年度	増減	
電力使用量	通信設備		万kWh	107,154.1	111,603.4	4,449.3	4.2%
	オフィス		万kWh	1,892.4	1,710.3	-182.1	-9.6%
	総使用量		万kWh	109,046.5	113,313.7	4,267.2	3.9%
燃料使用量	通信設備	重油	kl	404.9	405.7	0.8	0.2%
		軽油	kl	112.8	132.0	19.2	17.0%
		灯油	kl	206.6	258.4	51.8	25.1%
	自動車	ガソリン	kl	1,132.6	992.7	-139.9	-12.4%
		軽油	kl	38.4	34.7	-3.7	-9.6%
	総使用量(原油換算)		kl	1,787.6	1,726.2	-61.4	-3.4%
水使用量	通信設備総使用量	上水	千m ³	368.1	405.2	37.1	10.1%
紙使用量	総使用量		トン	22,577.5	27,199.5	4,622.0	20.5%

■排出するもの

項目	分類	単位	2003年度	2004年度	増減	
温室効果ガス (CO ₂ 換算)	通信設備用電力	トン	405,042.3	421,860.7	16,818.4	4.2%
	オフィスでの使用電力	トン	7,153.3	6,464.9	-688.4	-9.6%
	通信設備用燃料	トン	1,907.8	2,089.9	182.1	9.5%
	自動車燃料	トン	2,839.2	2,491.1	-348.1	-12.3%
	総排出量	トン	416,942.6	432,906.6	15,964.0	3.8%
産業廃棄物	総排出量	トン	322.9	348.9	26.0	8.1%

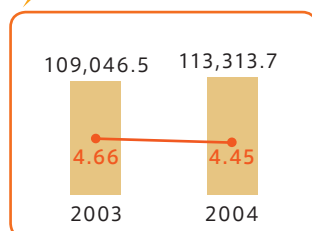
■リサイクル

項目	分類	単位	2003年度	2004年度	増減	
携帯電話回収量	携帯電話本体	万台	204.1	224.1	20.0	9.8%
	電池	万個	177.5	182.3	4.8	2.7%
	充電器	万台	95.5	100.7	5.2	5.4%

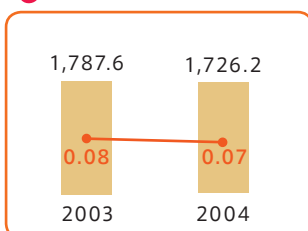
■ 使用量・排出量 ● 使用量・排出量(原単位※)

※原単位 = $\frac{\text{使用量・排出量}}{\text{KDDI単体の営業収益(億円)}}$

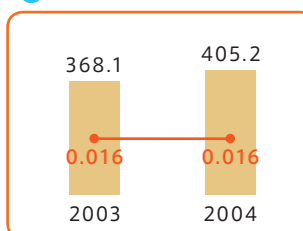
⚡ 電力使用量(単位:万kWh)



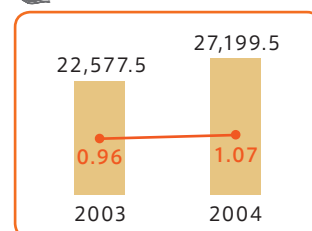
🔥 燃料使用量(単位:kl)



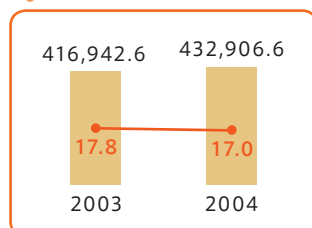
💧 水使用量(単位:千m³)



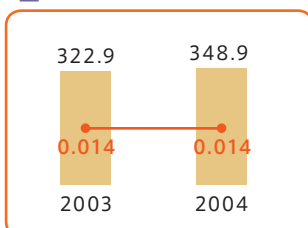
📄 紙使用量(単位:トン)



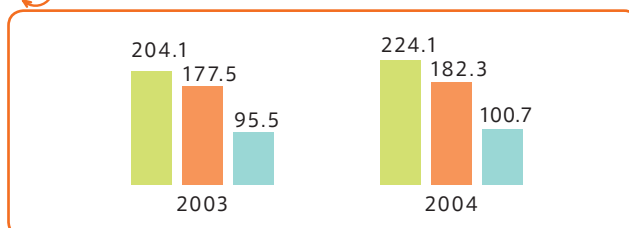
🌿 温室効果ガス(CO₂換算・単位:トン)



🗑️ 産業廃棄物(単位:トン)



♻️ 携帯電話回収量



■ 携帯電話本体(単位:万台) ■ 電池(単位:万個) ■ 充電器(単位:万台)

● データの記載にあたっては可能な限り実数の把握に努めておりますが、自動車の燃料使用量に関しては、使用金額などから算出しております。今後継続して改善に努めてまいります。● 温室効果ガス排出量の算出にあたっては、環境省「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン(試案)」に基づく係数を使用しています。

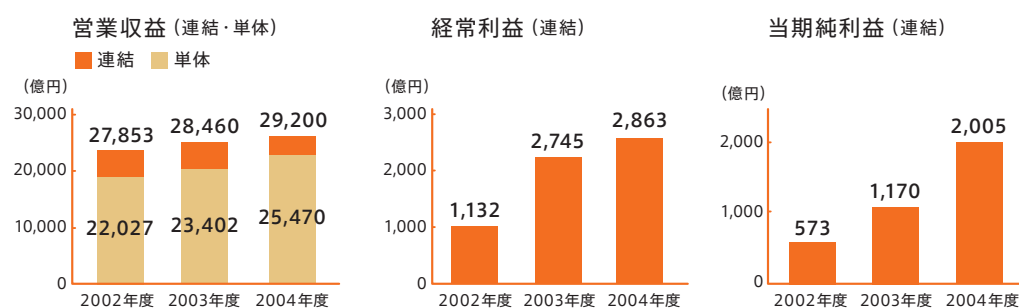


活動のあゆみ

- 2001年 11月** 経営会議で「環境保全活動」に積極的に取り組み、豊かな社会の実現に貢献する方針を決定
- 2002年 2月** 環境担当組織(総務本部 総務部 環境推進グループ) 設置
- 8月** 社内向け環境活動ホームページ開設
- 10月** 「KDDI 環境委員会」設置
- 全組織に「職場エコ委員」を設置し、日常の環境保全活動を推進
 - 主要課題に取り組むプロジェクトチームの設置(省エネルギー・省資源、携帯電話端末リサイクル、グリーン購入)
- 12月** 初のISO14001 認証取得
- ビジネスオペレーションセンター 越中島事務所(現ブロードバンド・コンシューマ営業管理部カスタマーオペレーションセンター)
- 2003年 3月** 「KDDI 環境憲章」の制定
「中期環境保全計画」の策定
- 目標:2007年度末までにKDDIグループ全社を対象とした「**全社統合環境マネジメントシステム**」を構築する
- 4月** 購買本部でグリーン購入を開始
- 9月** 社外向けホームページに「環境への取り組み」情報の掲載を開始
auリサイクルキャンペーン(第1回) 実施
- 以降年2回のキャンペーンを実施中
- 12月** au 初のソーラー携帯電話基地局を設置(北海道)
- 2004年 2月** 総務本部 ISO14001 認証取得
- 7月** 購買本部 ISO14001 認証取得
- 9月** 新宿事業所 ISO14001 認証取得
事業用電力における中期省エネルギー計画を策定
- 10月** 飯田橋事業所コーポレート・サポート部門(総務本部を含む14本部) ISO14001 認証取得
- 11月** 社外向けホームページ「環境への取り組み」掲載ページのリニューアルを実施し、内容を充実
- 2005年 1月** 山口衛星通信所「KDDIパラボラ館」にソーラー発電システムを設置

会社概要 (2005年6月末現在)

社名	KDDI株式会社 (英文名称: KDDI CORPORATION)
事業内容	電気通信事業
本社所在地	東京都千代田区飯田橋三丁目10番10号
(本店所在地)	東京都新宿区西新宿二丁目3番2号)
代表者	代表取締役社長兼会長 小野寺 正
資本金	141,851百万円
社員数	約8,000名 (出向者含まず)



編集後記

本誌はKDDIにとって初めての「環境報告書」です。皆さまにKDDIの環境への取り組みをご理解いただくことを目的としております。できるだけ読みやすく、簡潔な記載を心がけて作成いたしました。不十分な点もあるとは存じますが、今後継続的に改善してまいります。

また、個々の活動につきましても多くの課題を抱えております。できることからスピーディーに取り組むためにも、今回の発行を一つのきっかけとして更なる活動の充実と社内の意識向上を図り、地球環境の保護により大きく寄与できるよう努めてまいります。

KDDIの環境保全活動を発展させるためにも、皆さまから多くのご意見をいただき、活動に反映してまいりたいと考えております。お気軽にお問い合わせいただくとともに、同封しておりますアンケートにもぜひご協力ください。

活動は継続して実施し、改善し続けることが大切です。今後も更なる環境保全活動の推進に努めるとともに、情報開示においても内容の充実に努めてまいります。

総務本部 総務部 環境推進グループ

【お問い合わせ先】

KDDI株式会社 総務部 〒102-8460 東京都千代田区飯田橋3-10-10 ガーデンエアタワー
Tel. 03-6678-0720 Fax. 03-6678-0317 E-mail: eco@kddi.com

KDDI株式会社

東京都千代田区飯田橋 3-10-10 ガーデンエアタワー



「ECO by KDDI 環境への取り組み 2005」に関するアンケート

この度は「ECO by KDDI 環境への取り組み 2005」をお読みいただきありがとうございました。本誌の内容ならびにKDDIの環境保全活動に対する皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。貴重な資料として真摯に受け止め、今後の参考とさせていただきます。

KDDI株式会社 総務部 環境推進グループ
Fax.03-6678-0317

Q1. 本誌をどのような立場でお読みにになりましたか？

- | | | | |
|--|---------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> お客さま | <input type="checkbox"/> 株主・投資家 | <input type="checkbox"/> KDDIのお取引先 | <input type="checkbox"/> 政府・行政関係者 |
| <input type="checkbox"/> 企業/団体の環境・CSR担当者 | <input type="checkbox"/> 報道関係者 | <input type="checkbox"/> 研究・教育機関 | |
| <input type="checkbox"/> 環境NPO/NGO | <input type="checkbox"/> 学生 | <input type="checkbox"/> KDDIの従業員・家族 | |
| <input type="checkbox"/> その他 () | | | |

Q2. 読みやすさはいかがでしたか？

わかりやすい ややわかりやすい 普通 ややわかりにくい わかりにくい

※理由などをお聞かせください

Q3. 内容の充実度はいかがでしたか？

充実している やや充実している 普通 やや不足している 不足している

※理由などをお聞かせください

Q4. デザイン・レイアウトはいかがでしたか？

良い やや良い 普通 やや悪い 悪い

※理由などをお聞かせください

Q5. 内容の中で特に印象に残った項目はありますか？(複数回答可)

- | | | |
|---|--|---|
| <input type="checkbox"/> ごあいさつ (P1) | <input type="checkbox"/> KDDI 環境への影響 (P2) | <input type="checkbox"/> KDDI 環境憲章 (P5) |
| <input type="checkbox"/> 1. しくみをつくる (P7~P10) | <input type="checkbox"/> 2. むだをへらす (P11~P14) | <input type="checkbox"/> 3. あたらしい技術 (P15~P16) |
| <input type="checkbox"/> 4. 再生する (P17~P22) | <input type="checkbox"/> 5. エコでえらぶ (P23~P26) | <input type="checkbox"/> 6. つたえる (P27~P30) |
| <input type="checkbox"/> 環境保全活動の目標と実績 (P31~P32) | <input type="checkbox"/> 環境データ (P33) | <input type="checkbox"/> 活動のあゆみ (P34) |

※理由などをお聞かせください

Q6. 内容についてもっと詳しく知りたい部分などがありましたらお聞かせください。

Q7. よろしければ、地球環境のために普段心がけていることをお教えてください。

Q8. その他、ご意見・ご感想をご自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。